

世界のマンダリン市場(抜粋)

[FreshPlaza](#) 2024年3月1日

イスラエル： オットリ・ジャッファ品種に高い需要 今シーズンのオットリ・ジャッファ(ヤーファ)品種の収穫予測では、9万5千トン(前年と同程度)が見込まれていた。シーズン半ばの果樹園の状態は昨年と同様である。しかし、貿易の状況を見ると人手不足が輸出量に直接影響し、輸出量はすべての市場の最低限の需要をやりと満たす水準まで減少した。

今年の冬は、気象条件は完璧である。0℃を大きく上回る穏やかな気温で、雨が降る日もあり、風は弱く落果することはなかった。過去30年間の降雨量記録を更新するほどの雨が降ったが、雨と雨の間に十分な収穫時間があり、順調な取引ができた。

イスラエル植物生産販売委員会のある関係者は、「今シーズンは、すべての市場でオットリ・ジャッファへの高い需要とひどい品不足で始まった」と言い、「イタリアからフランス、イギリス、カナダ、アメリカ、日本まで、世界中の消費者がオットリ・ジャッファを求めている。イスラエルからの輸出は前シーズンより2週間遅れて始まり、ほとんどの市場で1月中旬から手に入るようになった。取引条件は依然として良好である」と述べた。

同関係者はさらに、「イスラエルの研究開発専門家達は、生産者らの全面的な協力を得て、出荷時期を1月まで早めるために、オットリ・ジャッファと同様の性質を持つ新しい品種を探している。我々は、地中海地方の晩生のソフト柑橘類交雑種の動向を意識している。生産者らは、晩生の交雑品種の栽培面積を増やしており、我々は南半球でも、ここイスラエルでも、そのことに注目している」と述べた。

北米： マンダリンの出荷シーズンは早めに終わる可能性 カリフォルニア州では、マンダリンの収穫量が10～20%少なく、おそらく隔年結果も一つの要因であろう。さらに、最近の雨で収穫が遅れる時もあり、雨が降る前に収穫を急いでいる農場でさえ、出荷可能量に影響が出ている。

また、セントラルバレー地域(カリフォルニア州)では、多くの地域でアザミウマによる被害が大きい。これは昨年の豪雨の影響で、アザミウマが草むらで繁殖できる環境が整い、開花時に果樹園に入ってきた可能性もある。そのため多くの生産者は、アザミウマを寄せ付けないように精力的な薬剤散布を行わなければならないが、その結果出荷量が減り、中級品が増えた可能性がある。カリフォルニア州の柑橘類の出荷シーズンも、例年より早く終わる可能性がある。

一方、東部では、フロリダ産のジューシークランチ等の品種も、シーズンの開始が早く、需要が旺盛だったこともあり、2週間早く出荷が終了すると見られる。需要に関しては良好であり、市場価格は堅調である。

南アフリカ： マンダリンは生育中で、出荷予想は3月中旬か4月上旬に判明 南アフリカの未熟なマンダリンはまだ樹上にあり、供給は北半球に依存している。ある小売業者のバイヤーは、「モロッコからマンダリンを仕入れているが、外観が大変良い」と言う。

南アフリカの柑橘類業界は、新シーズンの収穫予測(3月か4月に公表)を計算するために、マンダリンの生産に関するデータの照合に着手したばかりである。

ある柑橘類農園の技術部長は、「新しい果樹園の増加に伴いマンダリンの生産量は年々増えているが、今年もおそらく例外ではない。1か月後には、マンダリンの見通しは今よりもずっと明らかになるだろう」と言う。

気温が高いと日焼けの発生率が高くなるが、同部長はリンポポ州とムプマランガ州の果樹園では日焼けによるダメージは目立たないと言う。クレメンタインの出荷は第13週頃(3月末)に始まり、1か月の内にノヴァとリーニが続く。晩生のマンダリンの収穫は第21～22週(5月下旬～末)までに完全に始まる。

同部長は、「南アフリカのソフト柑橘類については、今年は良いシーズンになると思う。モロッコの出荷シーズンは早く終わり、ペルーのシーズンは序盤の出荷量が少なそうなので、南アフリカの出荷シーズンが始まる頃の市場の状況は良いはずだ」と語った。